

「新米監督の トンカン日記」

「足あと」



入社二年目 新米監督 行田

いつも大きな声で笑顔を崩さず、職人の体調を気遣い、たまにのたまにドリンクを差し入れる。チェック！ チェック！ 熱中症警報機以上なし！ 養生よし・資材の置き方平行よし・垂直よし！ 片付けよし！ 埃よし！

無論お客様にも丁寧丁寧にあいさつをし、大きな耳をたてて、問題がないか聞き取る。本日も異常なしの天気良好。その時、太陽の日差しを受けた養生シートの上に、一瞬 私の監督基準をはるかに超えるレッドゾーンレベルの異様な文様が目にあった。

早鐘を打つ鼓動、鳴り響く警報音、なんとなんと、私の張り巡らせたチェック項目の網を潜り抜けたのは、足あと！

検証
資材搬入時「その日は雨」掃き出し箇所から資材搬入。大工もその時手伝いをし作業靴で外に降りてそのまま搬入作業を手伝った…との事。

罰則要項
●明らかにわかる足あと
その注意不足
●養生することなく作業した
●あとで拭けばよいという判断
●毎月会議の中での注意喚起を台無しにした
私のトンカン日記に汚点を残した

総括
国実始まって以来の大失態
総括合計20点の減点！

たった足跡一つでというわけではありせん。今まで積みあがった相互信頼や築き上げたシステムを、スタート地点に戻してしまった責任は、看過できないという事です。

「あーあー」からやり直しか！
ぼやきながら、「一つの決まりを皆で継続し続ける事の大変さをかみしめる真面目監督でした。」



全40ページの大作

現在新築2件建築中
(夢ハウス仕様)
10月下旬内覧会予定しています。

セタリリフォーム 相談会のご報告

7月4日にTOTO佐久平ショールームにて開催したリフォーム相談会は15組のお客様にお越しいただきました。

併せて開催した、細井千恵子さんによる「夏バテ予防」のお話し会、堀部建員工藝様の組子工作も、たくさんの方にご参加いただきました。



おかげさまで、ユニットバス4台、キッチン3台ご成約をいただきました。
「水廻りのリフォームなら国実」このことが皆様によりやく周知されてきた、そんな手ごたえを感じた相談会でした。



夏バテ対策は食事から

あゝ危ない

「うっかり」 新築してしまうところだった!!

家づくりの相談を受けていると、「もう古いから、いっそ新築にしようかと思って…」そんな言葉をよく耳にします。

でも、よくよく話を伺うと、本当に困っているのはキッチンの使い勝手だったり、お風呂の寒さだったり、収納の不足だったりと、家全体ではなく生活の一部であることがほとんどです。

新築は確かに魅力的。けれど、建て替えには土地の条件、資金計画、仮住まい、相続、家族の将来像まであらゆる要素が絡みます。気持ちが高ぶった勢いで踏み切るにはあまりにも大きな決断です。

そこで私たちがいつもお伝えしているのは、「シンプルリフォーム」という選択法。

家全体を壊さなくても、キッチンはお劇的に使いやすくなり、お風呂は温かく、収納は増え、生活のストレスは驚くほど軽くなります。

新築の1/3、1/5の費用で、「暮らしの質」だけをしっかりと底上げすることができます。

「危ない危ない、うっかり新築してしまうところだった」と笑いながら帰られるお客様も少なくありません。

そしてもう一つの「うっかり」新築の勢いに乗ってしまつて、気づけば長期ローンやペアローンで人生を家のために捧げる事になります。
50年ローンは、「完済時に自分が

何歳になつていいのか」冷静に計算すると、背筋がすつと伸びます。

ペアローンは、夫婦それぞれが別々に、借金を背負う仕組み。どちらかが病気になったり、働けなくなったり、仲良くできなかつたりすると、もう片方に重くのしかかります。

住宅ローンは「家を買うためのお金」ではなく、
人生の自由度を奪う可能性のある長期拘束契約です。便利な言葉や、「今なら借りられますよ」という甘い誘いに乗ってしまつと、気づけばデンジャラスゾーンのご真ん中。
でも、人生はもつと大切。身先の丈に合った暮らし、背伸びしない住まいが大事。



あなた方は 苦しい時も 悲しい時も 二人で住宅ローンを 払い切ることを誓いますか

「新築しか方法はない」？
リフォームでここまで生まれ変わった実例を公開中。



「国子」のいびき 「庇」のない街

最近、街を歩くたびに胸がきゅつとなるのです。

家々から庇が消え、影がなくなり、どこか街全体が乾いて見えるから。

庇はただの飾りではなく、雨の日にとつと守ってくれる場所であり、夏の光をやわらげ、冬の冷気を遠ざけ、暮らしの余白でした。

それなのに今は、コストカットやデザイン優先の名のもとに、必要なら影の影までも切り捨てられてしまつた。

影のない家は、光に満たされるところか、光にさらされて疲れていくように思ふ。



うに見えます。

人が立ち止まる場所もなく、季節の気配さえ薄れていく。こんな街になつてしまふのだらうかと、言い知れぬ不安が胸に広がります。

家は本来、人を守るためのもの。なのに、その大切な機能まで削られていく。今の流れを思うと、静かに悲しいがこぼれます。どうか、影のある暮らしの豊かさをもう一度思い出してほしいのです。

「解体新書」 放置という名の 静かな崩壊

利用しなくなった建物は時間とともに風景の一部になります。

家の中や外を片づけることは、地域や私たちの安全を守り、景観を整え、次の世代が希望を持てる土台を作る行為です。もしあなたが「いつかは」と迷っているなら、その「いつか」は今かもしれない。

解体への投資は、あなた自身の安心であり、地域への寄付になります。放置の先にあるのは衰退ですが、決断の先には必ず可能性が見えてくると思います。



主人が当時設置したプレハブ小屋周囲をローで増築してある